HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	ソ連工業の研究 : 長期生産指数推計の試み［論文内容及び審査の要旨］
Author(s)	栖原, 学
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(学術)
Dissertation Number	乙第6976号
Issue Date	2016-03-24
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/61702
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	doctoral thesis
File Information	Manabu_Suhara_review.pdf, 審査の要旨

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（学術）　　氏名：　栖　原　学

審査委員　主査　教　授　田　畑　伸　一　郎
副査　教　授　山　村　理　人
副査　准教授　大　西　郁　夫
副査　教授　　上　垣　彰（西南学院大学経済学部）

学位論文題名
ソ連工業の研究―長期生産指数推計の試み―

本論文は，2015 年 5 月 22 日に提出され，6 月 12 日に審査委員会が発足した。その後 5 回の審査委員会と，11 月 13 日の公開口頭試問を経て，12 月 18 日の文学研究科教授会において審査結果報告を行った。

本論文の意義として，次の４点を指摘できる。第１に，公式統計や先行推計のサーヴェイが徹底的で，従来の統計・推計の問題点が包括的に論じられており，そのうえで，申請者自身の推計の独自性が明快に示されている。申請者が推計した数字は，一般社会にセンセーショナルな話題を提供するような奇をてらったものではなく，概して公式統計や先行推計の最高値と最低値との中間に位置するような穏便なものであるが，方法的な厳密さゆえに，その学問的価値は極めて高い。この推計結果は世界的業績であり，先行研究の頂点に位置する決定版の研究であると言える。

第２に，ソ連の統計における諸概念の定義を厳密に行っており，紛れのない明晰な論述で全編が貫かれている。たとえば，ソ連における「工業」の概念，価値タームでの「生産」の概念，労働統計における労働者カテゴリーの定義などである。

第３に，指数問題に関する行き届いた考察がなされている。ガーシェンクロン効果に関する適切な説明，ソ連の指数統計における新製品評価の問題点の指摘，ウェイト計算における幾何平均の利用などであり，本研究が非常に強固な理論的基礎のうえで進められていることを指摘できる。

第４に，いくつかの箇所において，ソ連経済のシステム上の特質が明確にされている。とくに，「暫定価格」の問題を論じた箇所では，ソ連経済の本質に根差す問題が的確に指摘されている。すなわち，自由な競争によって価格が市場で決まってくる経済とは異なり，ソ連経済では，新製品の価格付けに際して，個別企業の機会主義的な行動を招き，それが結局，生産そのものの歪みと経済統計の歪みをもたらしているというものである。このようにして，個別具体的な問題から本質的な問題を浮かび上がらせているという意味で，本研究には比較経済体制論上の貢献も認められる。

これまでのソ連工業生産指数の推計と比べた場合に，本論文における推計が，突出して優れていることについては，異論がないところである。今後，ソ連の経済発展の軌跡を論じるような著作を書く場合に，本研究を無視することは許されないであろう。ただし，口頭試問の際に確認されたように，データが得られないためにやむを得ず簡便な方法で推計された箇所も多々あり，そうした点については，今後，アーカイブをより詳細に調査し，ソ連統計に関わった統計実務者からの聞き取りを行うことなどが可能となれば，改善される見込みもある。さらに，本論文の推計結果をもとに，ソ連期について労働生産性や資本／労働比率などを計算してその変動を論じ，国際比較を行うことも望まれる。しかし，これらは，この論文についての問題というよりは，申請者を含むソ連経済研究者の今後の課題とも言うべきものである。したがって，審査委員会は，全員一致で，本論文は博士（学術）の学位授与にふさわしいとの結論に達した。